まだまだある！くるまで周る 函館近郊土木遺産

1 赤松並木（あかまつなみき）

明治６年、我が国最初の本格的な西洋式馬車道札幌本道(現一般国道５号)完成の際に移植されたもので、日本近代道路史と北海道農業開拓史における歴史的遺産となっている。赤松が主体で(一部は黒松)最近補植したものも含め、約1480本が残っている。昭和61年には、「日本の道百選」に選ばれている。

2 笹流ダム（ささながれ）

函館には、横浜に次ぐ日本で２番目の近代水道施設が整備されたが、明治末から急激な人口増加により水道供給が追いつかず、拡張事業の主要施設として、笹流ダムは大正12年に完成した。当時高価であったコンクリートを節約し工期も短縮する目的で、日本初の扶壁式中空RCダム（バットレス式ダム）という工法を用いてる。 昭和24年・昭和60年の二度の改修を経て、現在の姿となっている。

バットレス式ダムとは、鉄筋コンクリート製の板で水圧を受け、その板をバットレスと呼ばれるコンクリートの扶壁と何本かの横桁で支える工法で堤体をつくるものである。工費及び工期を最小限にする工法である半面、構造が複雑で頻繁なメンテナンスが必要と言われ、現在はあまり採用されていない。

写真提供 函館市水道局

昭和 60 年の大改修前のダムの姿

現在のダムの姿

3 五稜郭（ごりょうかく）

箱館奉行所は当初函館山の麓にあったが、防備強化のため、安政４年(1857)より７年の歳月をかけ、元治元年(1864)に現在の場所に完成。16世紀頃に、大砲・小銃などの火器の発達に対抗する有効な土木技術としてヨーロッパにて考案された「稜堡式(りょうほしき)築城法」を取り入れ、武田斐三郎の手によって設計された。現在も数多くの観光客が訪れている。

4 旧戸井線アーチ橋（きゅうといせんあーちきょう）

戸井線は、汐首岬に設置されていた津軽要塞への兵員輸送や物資の補給のため、日中戦争の開戦の年、昭和12年より建設が始まった軍用鉄道である。戦時下の物不足の最中での難工事であり、特に鉄不足のため「竹筋コンクリート」橋であったと言われている。昭和18年、戦況の悪化により中断し、工事は再開されることのない「幻の鉄道」となった。

5 函館要塞（はこだてようさい）

明治時代に10ヶ所の海岸要塞が造られたが、函館要塞は函館港防備で東京以北唯一のものである。明治35年完成。設備は28cm榴弾砲(りゅうだんほう)や15cm臼砲(きゅうほう)、9cm加農砲(かのうほう)等である。日露戦争では射程距離が7800mと短かったため、津軽海峡を通り抜けるウラジオ艦隊に対抗できなかった。その後は、津軽要塞に含まれ、訓練砲台弾薬・火薬等の備蓄基地として役目を果たした。敗戦にともない廃止となった昭和21年まで、函館山は一般市民の立ち入りは禁止されていた。

本冊子は、以下のウェブサイトからもダウンロードしてお使いいただけます。

- 独立行政法人 土木研究所 寒地土木研究所
  http://www.ceri.go.jp/contents/news/20110223.html
- 一般社団法人 函館国際観光コンベンション協会
  http://hakodate-kankou.com/guide-download/

函館 土木・産業遺産 フットパス

FootPath

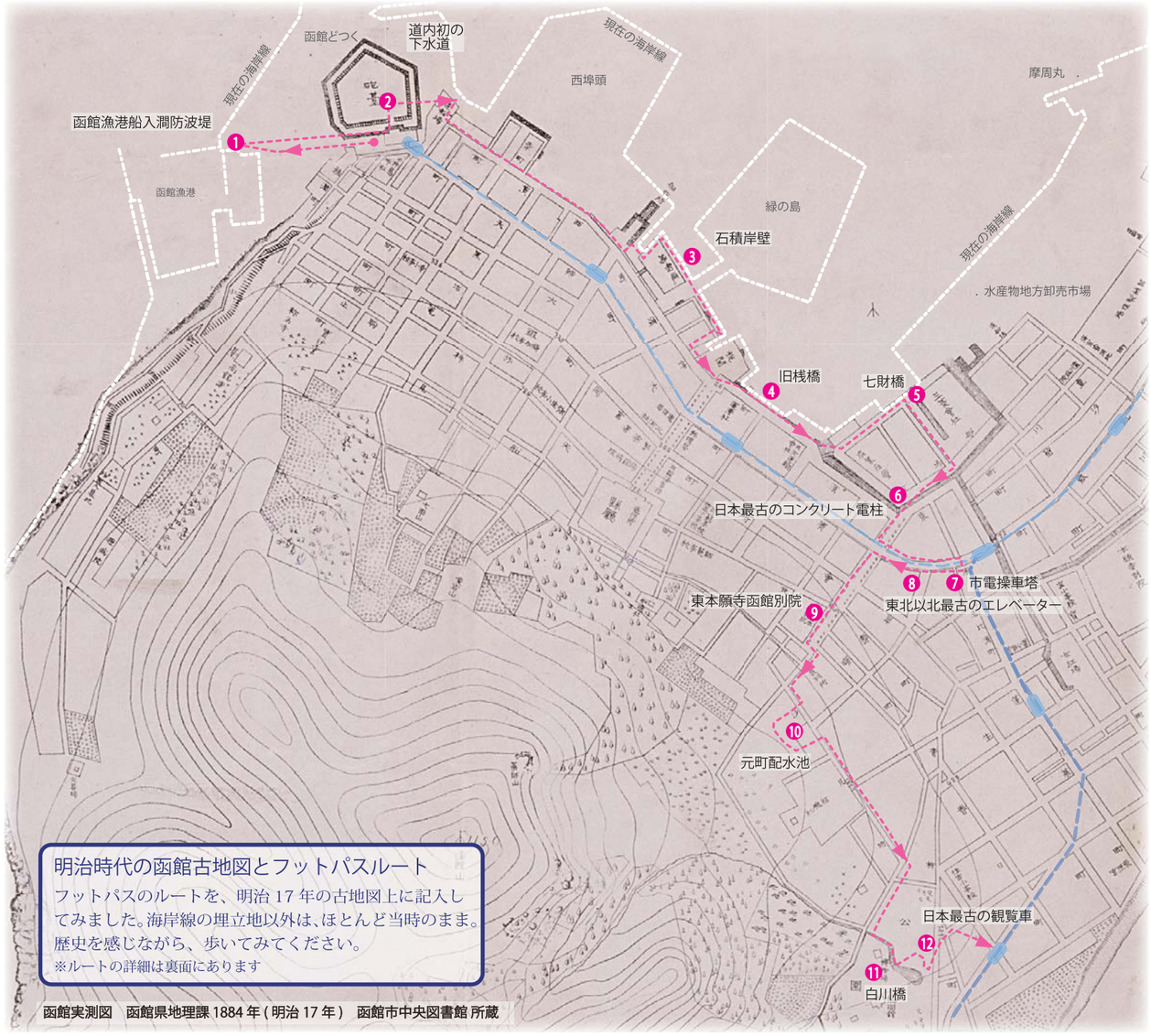
改訂　第４版

北海道の中でも函館市は、道内または日本で最初の土木・産業遺産が多数存在しています。このことから（独）土木研究所寒地土木研究所では、多種多様な歴史資源が残る函館を中心とする道南地域を対象として、土木遺産を始めとする歴史的資源を生かしたフットパスルートを実際に検討、提案することによって、土木・産業遺産を活用した地域振興に対する新たな可能性とそのための課題について探るための調査・研究を行っています。上記の研究の一環として、「函館土木・産業遺産フットパス」パンフレットを作成しました。

「フットパス」とは、イギリスを発祥とする“昔からあるありのままの風景を楽しみながら歩くこと【Foot】ができる小径（こみち）【Path】”のことです。

問い合わせ先　独立行政法人 土木研究所 寒地土木研究所 寒地技術推進室
札幌市豊平区平岸１条３丁目１番34号　TEL (011)590-4046

編集協力　公益社団法人 日本技術士会 北海道本部 道南技術士会　/　函館産業遺産研究会



明治時代の函館古地図とフットパスルート

フットパスのルートを、明治 17 年の古地図上に記入してみました。海岸線の埋立地以外は、ほとんど当時のまま。歴史を感じながら、歩いてみてください。

※ルートの詳細は裏面にあります

函館実測図　函館県地理課 1884 年 (明治 17 年)　函館市中央図書館 所蔵

函館港古写真　函館市中央図書館 所蔵

函館 土木・産業遺産 フットパス FootPath

スタート
総距離:4,720m 所要時間:86分
※見学時間等は除く
函館どつく前（函館市電）
函館駅前より 函館どつく前行き(5系統)乗車約12分。
START

距離:360m 所要時間:7分

❶ 函館漁港船入澗防波堤

明治32年に完成した石積みの防波堤は、ほとんど改良工事が行われていないのにもかかわらず、現在も現役で活躍。監督技士の広井勇博士は土木の父として有名。

距離:410m 所要時間:8分

❷ 道内初の下水道

明治29年に函館港改修にともない、弁天砲台を取壊しその埋立地に設置された下水道施設。鉄蓋しか見ることは出来ないが現在も現役で活躍している様子をうかがえる。弁天砲台に使用されていた石材を暗渠の蓋に使用しているが、現在はアスファルトに埋もれて見ることは出来ない。付近に数カ所点在する(図中の◆印が目印です)ので探してみるのもおもしろい。

距離:730m 所要時間:13分

❸ 石積岸壁

明治時代の名残が残る石積岸壁。向かいには近代人工島の「緑の島」もあり、新旧の調和が絶妙。表紙を見るとわかるように、運河は埋め立てられているものの、殆どは当時の海岸線を残している。当時、この付近には水上警察や外国人居留地や税関などがあり、特に税関(現海上自衛隊)辺りには古い石積岸壁が残っている。

距離:710m 所要時間:13分

❹ 旧桟橋

旧桟橋(東浜桟橋)は、青函航路の船着き場として明治43年まで利用されていた。そばには、北海道第一歩の地碑も立っており、まさに当時の北海道上陸の第一歩の場所である。

距離:400m 所要時間:7分

ゴール
青柳町（函館市電）
函館駅前までは 湯の川行き(2系統)乗車約12分。
GOAL

距離:220m 所要時間:4分

⓬ 日本最古の観覧車

戦後の復興のため、昭和25年に造られた北海道初であり、また現役最古の観覧車である。ゴンドラのかたちも日本では珍しい長いす型である。元々は大沼公園湖畔に「空中観覧車」と呼ばれ設置されていたが、昭和40年に本園に移設された。

距離:100m 所要時間:2分

⓫ 白川橋(函館公園)

函館公園は明治12年に多くの市民の手で造られた北海道初の洋式公園。公園内にある白川橋は、北海道で最初の洋式石橋と言われている。築園監督者の浅田清次郎が寄付した。

距離:550m 所要時間:10分

⓾ 元町配水池

明治22年に完成の中区配水池と明治29年完成の高区配水池があり、どちらも建設後100年以上経過している。特に中区配水池は日本人の設計監督による最初の近代水道施設で、現在もその役割を果たしている日本最古の配水池である。

距離:260m 所要時間:5分

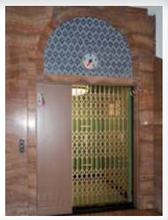
❾ 東本願寺函館別院

明治40年の大火で焼失したため、耐火建築にて再建することとなり、大正４年に完成した現在の本堂は、日本最初の鉄筋コンクリート寺院である。建築当初は構造的に不安に思う人も多かった。

距離:290m 所要時間:5分

❽ 東北以北最古のエレベーター

大正12年に丸井今井デパートとして建てられ、昭和９年に今の手動式エレベーターとして設置された。その後、函館市の分庁舎として使用されていて、平成19年まで現役として活躍し続けた。このエレベーターは2台設置された内の1台であり、日本で使用している手動式エレベーターとしては、東北以北で最古と言われている。現在は地域交流まちづくりセンターとして利用されており施設スタッフに見学を申し出れば、エレベーターに乗り上階まで行く事も可能。



距離:80m 所要時間:1分

※所要時間については、見学時間を除く、移動時間の目安です。